

第7回 浦河町総合計画審議会議事録

開催日時 平成29年4月26日(水) 10時00分～12時10分
開催場所 浦河町役場 2階 大会議室
出席委員 12名(早坂誠会長、武田宗務委員、濱谷雅樹委員、新保雄司委員、富永孝幸委員、木内稔委員、上新雅人委員、小林孝範委員、津澤静子委員、村下知宏委員、杉山綾子委員、野上由佳委員)
欠席委員 12名(小林司会長職務代理者、神原大輔委員、菅正輝委員、高村祐太郎委員、齋藤善厚委員、富田貴憲委員、遠山寛委員、土谷進委員、上田正則委員、小林美代子委員、永田善美委員、三浦敦子委員)
浦河町出席者 4名(松田企画課課長 葛西企画課課長補佐 宇田企画課主事 湯谷企画課主事)

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 審 議

資料：基本計画(案)「政策Ⅲ 活力を生み出すまちづくり」の修正箇所について事務局より説明

【A委員】 資料P4、計画(案)P57めざす目標値の新規漁業従業者数の単位が件になっているが、グラフ等では人になっているので統一したほうが良い。また、この4年間の新規漁業従事者数が28人に対し、目標値が5年で25人になっているが。

【事務局】 どちらかに統一する。目標値についても担当に確認する。

【B委員】 計画(案)P72～73の広域道路・交通網の整備について、前回の審議会でJR日高線や日高自動車道以外の部分での地域間交通をいろいろ考えた方がいいのではという話が出たが、その辺りが修正に盛り込まれてないが。

【事務局】 これまでも話題に出た十勝とのアクセスについては、事業者等に要望していても実現するのはなかなかむずかしいのが現状。日高管内では、これまでもJR日高線の復旧を第一としてやってきたので、それを超えて踏み込んだ計画はむずかしいことを理解いただきたい。

【B委員】 総合計画は5カ年、10カ年の長い計画なので、これに枝葉で公共交通の計画など個別の計画立てると思うが、その根の部分であれば、地域間交通について検討するなど、そのような一文を盛り込むだけでも違うと思う。

【A委員】 帯広の方と話す機会があったが、去年、帯広からえりもを回って様似まで試験的にバスを走らせていて、それを浦河まで延ばしてもらえないとか、天馬街道にバスを走らせられないかなど、計画の中に書き加えられるものであれば検討してほしい。

【C委員】 日高自動車道が静内まで事業化が決まり、浦河まで伸びるまで現実的にかかなりの年数がかかる。それを考えたら浦河と十勝を結ぶそういう交通アクセスや高規格道など、そのようなニュアンスを入れてもいいのでは。

【事務局】 具体的な内容は別として、新たな地域間交通に関する記載について検討する。

【D委員】 資料P1、計画（案）のP44のめざす目標で軽種馬の生産頭数が現状維持で本当にいいのか。資料P3、計画（案）のP54水産業の振興で、漁業者の安定経営のためのIQ制度は今もあるのか。

【事務局】 一時期IQ撤廃されたら輸入制限がなくなるので、どんどん安い物が入ってくる恐れがあるからIQ制度堅持を訴えたが、今のところそこは大きな動きがない。今はそれよりも大きな影響があるかもしれないのがTPP。今の漁業部門ではそういう認識を持っており、5年間のスパンでTPPを注視することが重要。軽種馬の生産頭数については、日高全体ではなるべく維持をしていこうという流れなので、平成27年の数字を維持したいということで目標値として設定した。

【D委員】 生産戸数は減っているのか。

【事務局】 戸数は減っている。生産頭数自体はここ数年で前年を上回った年もある。戸数の目標だと、地域として軽種馬をどうしていきたいのかが見えづらいという意見もあった。

【D委員】 生産頭数の現状維持というのは、高い設定では。

【事務局】 設定としては高い。いろいろ意見はあったが、この軽種馬については、地域として今後どうするのかをもっと打ち出すべきだし、少なくとも今後減っていくという設定は、馬の町として適当ではないという思いがある。

【D委員】 今、市場が活気づいて、売り上げも伸びているので、それに見合って生産頭数も増えてくかもしれないが、景気に左右される産業なので。

【B委員】 資料P6、計画（案）のP67雇用環境の充実のところ、今回の修正でミスマッチを防ぐため職業体験の支援が盛り込まれていて、以前の審議会で人口がこれから減っていく中で、雇用の場の創出も大事だが、人の確保が次の課題になるみたいな話もあったはず。そう考えると目標値の部分に雇用の場の確保に向けた取り組みだけではなく、例えば、浦河高校卒業者のうち、地元企業の就職率、地元に着した率がわかるものや、UターンIターン補助金とかを出していると思うが、その補助金を使った方の件数だとか、そういう人材がどう定着したかみたいな目標値入れてもいいのでは。

【事務局】 平成27年度はUターンIターン補助金がスタートしていないので、現状の数字が出てこないが、28年度の実績を踏まえて目標値を設定できればと思う。

【会長】 この他なければ、十勝圏との交通アクセスなど地域間交通に関するのと、今の雇用の充実にかかる目標値について再検討するというご承知おき願いたい。

第7次浦河町総合計画基本計画(案)施策Ⅳ「快適な暮らしを支えるまちづくり」(P76～)

施策①自然環境の保全(P76～77)について

【E委員】 自然環境を守る土台として、自分たちの生活がこの町の自然にどう関わっているか意識を高めていかないと。町として一步踏み込んで、例えば合成洗剤じゃなくて、界面活性剤を使っていない石鹸を使いましょうとか、町民の生活面からもPRし、意識を高めてもらうような。この後に出てくるが、埋め立て地がもうすぐ満杯になるという問題でも、埋め立てしなればならないプラスチックは使わないとか工業製品でも自然に還るものを使うとか。そういうものを広報などでPRしてくれたらいいと思う。

【A委員】 「エコ」という言葉を全面に出してまちづくりをしている自治体もあるが、環境の部分にエコという言葉が1つも出てきていない。実際にエコという言葉を使うかどうかは別として、そういう要素を含めてもいいのでは。

施策②生活環境の向上（P78～81）について

【B委員】 P81の目標値の部分で、ペットと空き家、空き地に関する苦情件数になっているが、何か別の計り方はないか。苦情があっても、その対応が難しくて処理できないことのほうが問題なのかと思うので。

【事務局】 根本的な解決が非常に難しいので、このめざす目標値はちょっと考えさせてほしい。

【D委員】 今後、人口が減って、空き家が増えていくということが予想されるが、空き家等対策事業とは例えば、どんな事業なのか。

【事務局】 空き家対策特別措置法ができたので、最終的には、それに基づいた対応をしていくことになる。一昨年ぐらいから町内の空き家の把握を始め、担当課でも空き家の台帳を整理した。今後はそれに基づいて心配されるような放置状態の物件がどうなっていくのか、法律、計画に基づいて町としても対応していく。

施策③環境に優しいまちづくりの推進（P82～83）について

【E委員】 ごみ焼却施設のことだが、今の焼却炉はプラスチックまで燃やせるほどの大きさじゃないと聞いたが、施設はもうすでに老朽化しているのか。

【事務局】 すでに耐用年数に到達しているような状態なので、施設の延命化に向けた検討をしている。

【E委員】 延命にも限界があるので、その後にプラスチックなども全部燃やせるぐらいのものに建て替えるという計画はないのか。

【事務局】 現状の性能を維持するための延命でも何億単位のかかなりの経費がかかる。まずは現状の性能を維持するためにどうすればコスト的にも安く、さらに長く使えるか検討を進めている。建替えについてはこの10年単位の総合計画の中では、そこまで踏み込める状況にはない。

【E委員】 埋め立て地も限界が近づいていく。

【事務局】 この10年間はごみの資源化・減量化をもっと進めることで最終処分場の延命を図る。今の最終処分場を作ったときは、ちょうど今ぐらいの年度で埋め立て地がいっぱいになる計画だったが、ごみの排出量が減ったこともあり、現状のままでいくと平成40年くらいまでは使える見込み。今後も皆さんにご協力いただき、ごみの量を減らして、埋め立てる量を減らすことができれば更に使用できる年数が延びる。

【E委員】 将来的に立て替えるなら、私はこれ以上、山に埋め立てるのは嫌なので、プラスチックなど全部燃やせるぐらいの大きい焼却炉を作ってほしい。

【事務局】 この先の施設整備については、浦河町1町だけではなく、周りの町と一緒に考える必要がある。

施策④防犯対策・交通安全対策の強化（P84～86）について

【E委員】 要望になるが、標識の設置やスピード規制、追い越し禁止のセンターラインの延長など

前から自治会要望を出しているが、全然動いてくれない。誰かが亡くなってからでは遅いので、要望があったときには速やかに対応してほしい。

【F委員】 緑町のスケートリンクから奥は完全に歩道がない。子どもの人数も少ないが、自転車が通学路として使っている。40キロ規制だが、40キロで走っている車はまずいない。自治会でも要望はしているみたいだが、なかなか歩道ができないのが現状で、本当に事故が起きてからでは遅いので、早めに対策してほしい。

【C委員】 浦河町の危険箇所はいくつかあると思う。それを町で全体的に把握して、所管に要望してほしい。

【事務局】 道路は場所によって所管が別れる。総合計画全般にいえることだが、それぞれの事業をパートごとに挙げているので、見た目は独立した事業が並んでいるが、実施にあたっては、横の連携をしっかりとやらなければならないと思っている。

【G委員】 P86 のめざす目標値で、事故件数が10件となっているが、0にしないといけない問題だと思う。

施策⑤消防・救急体制の充実（P87～89）について

【A委員】 P88 のグラフを見ると、火災件数は少なく、消防団員数も4年間でそれほど減っていないので、上手くいっていると感じるが、消防団員の多分高年齢化が進んでいるように思える。高年齢化による課題があれば、記載したほうがよい。

【事務局】 表現として踏み込めるかどうかは検討させてほしい。

【B委員】 めざす目標値の「消防・救急体制の整備」について満足、やや満足と答える割合が今48%だが、僕のところにアンケートがきたとしても、救急車を呼んだこともないし、消防車も呼んだことがないので、多分、満足かやや満足に丸をつけると思う。この48%って結構低いのでは。

【事務局】 平成28年に作った総合戦略の基礎資料としてとった住民アンケートを使っているが、なぜ満足かというところまで踏み込めていない。1つは、今言われたように、消防や救急に接していない方にとっては、浦河の消防体制・救急体制どうなっているのかよくわからないのが正直な感想。不満という意味ではなく。そうなってくると、浦河では、こういう体制で頑張っていますということをもっと打ち出すことも必要になってくる。現状の48%の理由がそこまで分析できていないが、目標値を上げたということは、現状もわかってもらったうえで、さらに不幸にもそういうこと出動せざるを得ないときには、そういった方々に安心していただけるような態勢でその方の対応をする。そういうところで、目標値を上げていきたい。ちなみにどちらとも言えないと答えた方が44%。不満、やや不満合わせて7%。

【B委員】 そういう意味では、いざとなっても大丈夫みたいなことをPRするなど盛り込んでもいいのでは。

施策⑥防災対策の推進（P90～92）について

【E委員】 災害など何かあったときは自治会単位でどうにかしなければならないので、コミュニティごとの防災訓練、各実体験みたいな訓練をやって、皆で実感していくという機会をもってほ

しい。やってみるだけで全然違うので、そういうときにリーダーシップを皆が発揮できれば混乱しなくて済む。誰かリーダーがいて、皆従うというよりも自分で考えられる町民の意識を作らなければ。

【事務局】 総合計画に基づいて個別事業をやるときには、審議会でこういう視点が必要だという意見が出ていたことは整理をして情報を共有したい。

【F委員】 浦河に10年以上住んでいるが、近年の異常気象で去年みたいに大雨が降って向別川が氾濫して、道路が冠水したのは今までに経験がなく、すごくびっくりした。何ミリ以上降ったら、ここの道路は通行止めになるというのを早く知っていたらいいなと思った。地震や津波は冊子みたいな感じでいただいているが、雨や風というのはまた違う。

【事務局】 雨がこれだけ降ったらこうですと型にはめると逆に危ないこともあるので、そこはどうしても状況みながらの判断となる。雨はこれだけ降ったけど、川は増えてない。また逆もある。

【H委員】 昭和56年～57年にも想定外の大雨が浦河に降って、かなり冠水した。そのときは、大雨と潮の条件とかタイミングなどいろいろな条件が重なって災害が起きた。私が率直に感じたのは、去年の台風では、昭和56年～57年の大雨のいろいろな経験を積んで、迅速で十分な対応があって、大きな事故にもつながらなかったと思う。確かにこういう不安な声があがっているんで、そういう意味では十分に考えていかなければと思うが、個人的な意見としては、あれだけ想定外の異常気象の災害だったが、非常に頑張っていたなというのが率直な感想。ただ初めて経験される方からにしてみればかなり脅威だなと。で、その脅威につながるようなことが起こりえた。しかも短期間で2度3度ってということなので、そういう部分も十分頭に入れて、これからいろいろ掘り下げて、共有できるデータがあればいいと思う。あまり安心感を与えすぎるのも逆にいうとよくないということなので、計画とは別に実施する団体に運用として考えるべきことのほうが多いのかなと思う。

【B委員】 目標値の部分だが、災害は絶対起きると思うので、防災に向けた取り組みについての満足度を目標値に掲げても、起きたらみたいなどころもあるので、何か安心できる指標というか、こういう形をめざしますというのが具体的にあると、見た人が安心できるのかなと思う。あと、津波の浸水マップをみるたびに思うが、役場とか消防署が浸水区域に並んでいる。そういったこと含めて、5年10年の話ではなく、災害に強い都市づくりみたいな都市計画の視点っていうのも検討することを中身に入れていいのかなと思った。

【事務局】 起きたときどう対応できたかに対する評価もあるし、普段からこういうことを町としてやっている、行政側だけでなく町民もこれだけのことをやっている、そういう意識が高い町だと思ってもらえるかどうか。そういう相対で防災に向けての取り組みについての満足感。そういう捉え方で設定するしかないかなと思っている。数量的に何か出すものがあればと考えたが、なかなか難しい。それと公共施設について、海に面したところに公共施設が集中しているが、この10年のスパンの中で消防庁舎、役場庁舎立替計画はないので、7次計画の中で移しますとかそれに向けて検討っていうのはちょっとまだ早いかなと考えている。

【B委員】 例えばファミリースポーツセンターなど避難所になっているが、それ以外にも老朽化した避難所指定されているものもたくさんあると思う。

【事務局】 そのあたりについては、公共施設の在り方といったところでも考えたい。

施策⑦生活道路・交通網の整備～施策⑩情報通信基盤施設の利活用（P93～101）について
（意見なし）

施策Ⅴ「みんなでつくるまちづくり」（P102～）

施策①地域を支える活動の推進（P102～104）について

- 【A委員】 浦河町ホームページ閲覧件数が平成24年と27年で比較すると3年で1.5倍になっている。こういう状況にあるので、町民への情報提供、それから浦河町を外に対するPRということも含めて、ホームページの今以上の充実ということを謳ってほしい。
- 【B委員】 P103の広報広聴活動の充実について、町長への手紙などもあるが、困り事や要望をもうちょっと挙げやすい仕組みと、それがどう進んでいるのかを知らせる仕組みみたいなものがあればいいと思う。
- 【E委員】 町長への手紙できた内容とその答えやQ&Aは、たまに広報紙で取り上げてほしい。
- 【D委員】 P103の今後の方向性の「1.協働のまちづくりの推進」の主な事業で、自治基本条例の研究とあるが、これは策定に向けて研究を進めるということか。
- 【事務局】 策定の必要があるかないかを判断するためにまず研究から。自治基本条例は行政としての果たすべき責任の一方で、住民の責任といったところもあって初めて成り立つ。町民の方々も含めて、町自治基本条例必要なのか、必要な状況なのかといったところからやって積み上げていかないと、いいものはできない。作る時には必ず住民の方も参加していただいて、町が原稿作っていかかですかということにはならない。住民の皆さんと行政と議会とが一緒になって作っていく必要があるので、研究からと思っている。

施策②行政・財政の運営（P105～107）について

- 【C委員】 P107の女性管理職数の目標値について、平成27年は2人で33年は3人になっているが、多いか少ないかはわからないが、現状からこれみて目標が3人なのか。
- 【事務局】 男女共同参画の推進に関わる目標値だが、年齢的に若い方がいきなり管理職となることはないので、役場内の年齢構成などの状況を見ると、この5年の間では何とか3人を目標にしようということで設定した。
- 【C委員】 無理のない人数ということか。
- 【事務局】 現在の女性職員の年齢構成などから見ても、達成できるかどうかと言ったところ。
- 【C委員】 女性の職員を正職できちんと雇うという傾向にしていけば、人口も増えるのではないか。
- 【I委員】 専門職だと女性も多い。
- 【C委員】 女性の幅広い登用をお願いしたい。
- 【事務局】 今の組織でいくと、役職付になるのは係長職から。係長以上というくりにすると、女性の割合もかなり増える。実際にもうすでに係長職以上で活躍している女性もいる。
- 【C委員】 年功序列にはこだわらない、能力がある者を管理職にする。そういう指針は大事なことだと思う。
- 【事務局】 いずれにしても、女性も男性も一緒に活躍できる目標を立てたと受け取ってもらえれば。

施策③広域連携の推進（P108～109）について

- 【A委員】 ここに書いてある四町広域、nittanは18自治体、日高東部の3町というようなつながりがある。それから帯広の十勝南部と日高東部9町の連合による日勝半島というようなつながりもできてきた。1町単体ではなかなか難しいので、いろんな組み方をしていかなきゃいけないが、それぞれに対し、組むメリット、デメリットがあると思うので、そのへんを上手く整理したほうがいいと思う。
- 【事務局】 ここでの今後の方向性で示したかったのは、今いわれたように単独町ではなかなか難しいことに対し連携を組んで、連携もただ組むではなく、その目的や組む相手の状況によっていろいろ出てくるということを示したかった。そのへんについては、効果や効率を含めて、組む相手、テーマによってはどうしたらいいのか、そういう検討の視点が必要ということがわかるような文言について考えてみたい。
- 【B委員】 全体的にだが、アンケート結果を目標値に置く際に、一般町民がわからない中身が多いので結局どちらともいえないが大半を占める。どちらともいえないがほとんどとか、一般町民に聞いてもわからないことの満足度を目標値にあげるのはどうなのかなと思った。何かもっと具体的に、一般の方でもわかりやすいというか実測できる数字とかがあるのであれば、そちらをあげて、実際に達成できたのか、達成できなかったのか、あとで検証できる目標のほうがいいのでは。
- 【事務局】 全体的な話になるが、基本的には総合計画であれ、どんな計画であれ、それをやる目的は、それをやったことによって町民の方がどう満足していただけるかなので、満足度を測ること自体について否定的ではなく、むしろやるべきだと思う。ただやるにあたって、漠然と満足ですかと聞くのではなく、その方の思っていることがうまく汲み取れるようなアンケートの組み方というのが必要。今の時点で、交流件数を何件にするという目標値にすると、それは結局、行政側の目標値なので、何回交流したからいいみたいになってしまう恐れがある。住民の方の満足度というのは、ある意味行政としても結構ハードルの高い目標なので、やるモチベーションにはなるとは思う。
- 【E委員】 質問になるが、日高管内でのイベントは、各町で日程調整しているのか。せっかくやるなら、日程をずらして、管内の住民がどこにもいけるようにしたほうがよいので。
- 【事務局】 桜まつりは咲くタイミングがあるので別だが、正式な形でのお互いの約束事ではないにしても、イベントの日程については一定程度配慮されていると思う。

4. 閉 会